2023年 7月 26日

★★ 【おさらい編】一粒万倍トマト

年　　組（　　）名前

サイン

◆愛知県で、1粒の種から栽培したトマトが、1万2000個の実をつけました。

（2023年6月6日　読売新聞夕刊より）

【1】トマトを使った料理をたくさん書きましょう。

※先生やおうちの人といっしょに読みましょう。

一粒万倍トマト

愛知県東海市の市立農業センターで、1粒の種からトマト1万2000個が実をつけた。ゴルフボールより少し大きい中玉が真っ赤に熟している＝写真、菅野靖撮影＝。

【2】夏にとれる野菜をたくさん書きましょう。

©The Yomiuri Shimbun

年　　組（　　）　名前　　サイン

◆第一生命保険は2022年の「サラっと一句！わたしの川柳コンクール」の上位10作品を発表しました。物価高やコロナ禍を嘆く生活にちなんだ作品が並びました。

（2023年5月26日　読売新聞朝刊より）

サラ川上位10作品

1位	また値上げ　節約生活　もう音上げ
2位	ヤクルト1000　探し疲れて　よく寝れる
3位	店員が　手とり足とり　セルフレジ
4位	下腹に　脂肪が集合　「密ですよ」
5位	サイフより　スマホ忘れが　致命傷
6位	「キレイです」　褒めてくれたの　レントゲン
7位	パスワード　つぶやきながら　入れる父
8位	送料を　無料にするため　ムダ使い
9位	オミクロン　家族全員　株主に!!
10位	熱が出て　はじめて個室　もらう父

物価高 コロナ禍嘆く 五七五

22年「サラ川」上位10作品

第一生命保険は25日、2022年の「サラっと一句！わたしの川柳コンクール」の上位10作品を発表した。前回までサラリーマン川柳コンクールとしていたため働き手の哀愁漂う句が多かったが、今回は物価高やコロナ禍を嘆く生活にちなんだ作品が上位に並んだ。

資源高や輸入物価の上昇を映し、1位は「また値上げ　節約生活　もう音上げ」が選ばれた。店頭での品薄状態が続いた人気商品を巡って、2位には「ヤクルト1000　探し疲れて　よく寝れる」が入った。

また、デジタル時代を象徴し、「店員が　手とり足とり　セルフレジ」（3位）や「パスワード　つぶやきながら　入れる父」（7位）など、変化に戸惑うシニア層の悲哀を歌う作品も支持を得た。第一生命は今年1月、8万5437句の応募作品から入選100作品を選び、約6万1000票の投票から入選作品を決めた。

【1】この1年を振り返って、うれしかったこと、悲しかったこと、困ったことなどをたくさん思い出し、書きましょう。

【2】【1】で答えた事柄を、五七五の川柳にしましょう。

©The Yomiuri Shimbun

年　　組（　　）名前　　サイン

◆インターネット上にあふれる真偽の交ざった情報に無防備なまま接すると、思考や想像力、判断力が悪影響を受けかねません。

小5「バナナ320本で死ぬ」

「都市伝説」妄信 検索6時間

千葉県に住む小学5年の男子児童(11)は、根拠が曖昧・不明な「都市伝説」を発信する動画投稿サイトのとりこだ。「ぞくっとするのが、たまらない」という。

今年1月のある日、学校の給食にバナナが出た。1本を3等分にした大きさ。口に放り込んだ男子児童は急に大声を上げた。「バナナを320本食べると、死んじゃうんだよ」

教室の最後列に座る男子児童を同級生が一斉に振り返った。「そうなの!?」。みんな驚いた様子だった。ネットで見つけた、とっておきの情報。彼は少し誇らしく思った。

男子児童は小学3年の頃からオンラインの戦闘ゲームに夢中だ。攻略法を指南するサイト上の動画をあさっていると、「人は死んだらどうなるのか」といったタイトルのものばかりが上がってきた。ゲームでは、攻撃されても「血も出ず、パタッと倒れるだけ」。次々に「おすすめ」される動画を見ているうち、「死」を現実のものとして意識するようになった。

「水は7㍑、しょうゆは1㍑飲めば死ぬ」。日常的に口にするものの「致死量」をまとめたという動画に目がくぎ付けとなった。バナナの都市伝説は、過剰に摂取すると健康に悪影響があるカリウムの含有量に依拠しているとみられるが、どれも「通常の食事なら問題のない、いたずらに不安をあおる不適切な情報」（内閣府食品安全委員会）だ。

でも、同じことを伝える動画を何本も見た男子児童は「本当のことだ」と信じて疑わない。だから、同級生の注目が最初だけで、すぐに意識しなくなることが気に入らない。興味をひく新しい情報を探し、平日2時間、休日は6時間もスマートフォンにかじりつく。

最近、言葉遣いが乱暴になった。学校では同級生に、軽々しく「死ね」と口にする。母親(39)には時々、困った担任から連絡がある。

「エスカレートして友達をいじめたり、自殺願望を持つようになったりしたら……」。母親の心配は増す。

（2023年5月29日 読売新聞朝刊より）

※答えは裏に書きましょう。

【1】ネット上の偽情報にだまされないために、あなたはどのようなことに注意していますか。

【2】脳の働きに関する左の記事を読んで、あなたはどう思いましたか。

情報偏食 ゆがむ認知

脳の成熟「本能」先行

感情ブレーキ 発達遅く

※明和教授への取材に基づく

子どもたちはなぜ、ネット上の情報を簡単に信じ込んでしまうのか。専門家は、脳の部位によって成熟レベルが異なるアンバランスさに着目する。

本能や感情をつかさどる脳の部位は「大脳辺縁系」と呼ばれる。おでこの辺りにある「前頭前野」には大脳辺縁系にブレーキをかけ、感情をコントロールする司令塔的な働きがある。

大脳辺縁系が思春期に急激に成熟するのに対し、前頭前野が完全に機能するには25年以上かかるとされる。脳科学者の明和政子・京都大教授は「前頭前野が未成熟な段階にある子どもの頃は、物事を感覚的に捉えてしまい、ネット情報の強い刺激に影響されやすい」と指摘する。

親や教師、友人といった信頼できる存在が前頭前野のようなブレーキ役となるが、親子関係などに問題があると抑制が利きにくくなる。

思春期は、特に周囲の環境に影響されやすい。現実世界よりネット空間に居心地の良さを感じると、脳に快楽をもたらす「報酬系」と呼ばれる神経回路が活発化し、偏った情報ばかり集めたがるようになる。

©The Yomiuri Shimbun

讀賣新聞
ワークシート通信
For SDGｓ　2023年 7月 26日
★★★★　【おさらい編】広島サミット　中高生が訴え
読売新聞 教育ネットワーク YOMIURI EDUCATION NETWORK

年　　組（　　）　名前

サイン

各国首脳へ 中高生訴え

被爆者の声 じっくり聞いて

5月に広島市内で開かれる先進7か国首脳会議（G7サミット）で、各国首脳が被爆者と面会し、十分な時間を確保した上で広島平和記念資料館を見学するよう求めるオンラインの署名活動を、市内の高校生らが行っている。核兵器廃絶に向けて各国首脳に被爆の実相を理解してもらうための活動で、集まった署名は3月下旬に外務省に提出する予定だ。

署名活動しているのは、4月から広島大に進学する安田女子高3年の岡島由奈さん(18)と、川崎市在住で中学3年の大林美晴さん(15)。岡島さんは曽祖父を原爆で亡くしており、中学生以降、被爆証言の聴講を重ね、核廃絶の署名などを行う高校生平和大使の活動にも携わってきた。

岡島さんが初めて聞いた被爆証言は、広島駅近くで直接被爆し、被爆者であることを知られて離婚を強いられ、女手一つで子育てした女性の話。証言を聞き、「原爆は生き残った人にも苦しみを負わせるのか」と衝撃が走った。

サミットの広島開催が決定した昨年、2016年5月のオバマ米大統領（当時）の広島訪問の事例を調べた。オバマ氏の資料館の視察は約10分にとどまり、被爆者とも短い言葉を交わしただけだったことを知った。

「痛み、苦しみを知る人の声が、一番人を動かせるはず」。被爆証言を各国首脳に聞いてもらおうと署名を思い立ち、これまでの活動で知り合った大林さんに声をかけた。「核政策を知りたい広島若者有権者の会」（カクワカ広島）とも連携し、署名を呼びかける文書を英語のほか仏独伊の3言語でも作った。

3月からインターネットサイト「Change.org」で署名活動を始めたところ、既に1万8000筆超が集まるなど、大きな反響があった。

被爆者は高齢化しており、岡島さんは「各国首脳が一堂に会して被爆証言を聞く機会は今回が最後かもしれない。核が使われたら何が起こるか、当事者の声に触れてほしい」と願い、「中身のある議論で核廃絶への具体的な道筋を示してほしい」と期待する。

G7 広島サミット 2023

資料館を訪れた要人や著名人らが残した主なメッセージ

95年　ノーベル平和賞受賞者　ダライ・ラマ14世

言葉に表せない、想像を絶する破壊力を持つ兵器をこの地上から廃絶することは、我々人間すべての務めです

2005年　ウクライナ大統領　ビクトル・ユシチェンコ

文明のもっとも恐ろしい大惨事を心に刻みます。核の脅威のない世界をつくるために我々は友人である日本国民と完全に連帯しています

08年　米国下院議長　ナンシー・ペロシ

広島への訪問は戦争の破壊力を強く思い出させるものであり、すべての国が平和を推進し、より良い世界を築くことが緊急の課題であることをはっきりと示しています

◆先進国のリーダーが集まって世界的な課題を話し合う「G7サミット」が、被爆地の広島で開かれました。　（2023年3月15日　読売新聞広島版、5月12日　読売新聞大阪夕刊より）

16 平和と公正をすべての人に

【1】広島に集まった各国のリーダーは、核兵器の廃絶について、実際にどのような発言をしましたか。新聞やニュースサイトなどから調べ、印象に残った言葉を書きましょう。

【2】あなたならば、日本を訪れる各国のリーダーにどのようなことを訴えたいですか。記事の内容や、これまでの学習から感じた「平和」への思いを意見文にまとめ、裏に書きましょう。

©The Yomiuri Shimbun

読売新聞社は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

讀賣新聞
ワークシート通信
2023年 7月 26日

★★★★ 【おさらい編】Apple Pie Taxi

年　　組（　　）名前

サイン

読売新聞 教育ネットワーク
YOMIURI EDUCATION NETWORK

‘Apple Pie Taxi’ service helps promote pastry business in Aomori prefectural city

◆青森県弘前市で、アップルパイの写真を車体にあしらったタクシーが走っています。

（2023年4月19日　THE JAPAN NEWSより）

【1】タクシーにラッピングされているアップルパイは全部で何店舗分あるでしょうか。英語で書きましょう。

【2】アップルパイを代表的なデザートとする国はどこでしょうか。調べて英語で書きましょう。

HIROSAKI, Aomori -- An Aomori Prefecture cab firm is helping to promote sales of apple pies with the recent introduction of two special taxis.

Hokusei Kotsu's "Apple Pie Taxi" service operates in Hirosaki. The cabs are decorated with pictures of the tasty fruit-based pastries sold at specialist stores in the city. The company hopes to publicize its services to tourists in conjunction with the Tsugaru Tourism Campaign, which kicked off this month.

One cab is adorned with pictures of apple pies sold at 21 stores in the city, while the second cab sports photos of similar products sold at 20 other outlets. Each store features in the Hirosaki Apple Pie Guide Map created by the Hirosaki Tourism and Convention Bureau; a copy of the map is available in the taxis.

Fares for apple-pie shop tours begin at 2,810 yen for 30 minutes, with prices rising for 60, 90, and 120 minutes, respectively. While operating, the cabs deploy an apple pie-shaped lantern on their roofs.

promote：促進する、pastry：焼き菓子、パイ、cab firm：タクシー会社、are decorated：飾られた、publicize：宣伝する、tourists：旅行者、conjunction with ～：～と組み合わせて、the Tsugaru Tourism Campaign：津軽観光キャンペーン、kicked off：始まった、adorned with ～：～で飾られた、sport：身に着ける、similar products：同様の商品、the Hirosaki Tourism and Convention Bureau：弘前観光コンベンション協会、available：入手可能、fare：料金、respectively：それぞれ、deploy：配置する

©The Yomiuri Shimbun

「戦国10大ニュース」9～10月開催、ぜひ投票を！

読売新聞は毎年末、皆さんの投票でその年の「１０大ニュース」を選んでおり、多くの児童・生徒にもご参加いただいています。今年は初の番外編として、戦国時代の出来事に投票する「戦国 10 大ニュース」を９～１０月に開催します。

各地の武将が天下統一を目指した激動の時代。「どの出来事が、この時代やその後の歴史、わたしの住む地域にとって重要だったのだろう」と考えながら投票することで、人物や年号を覚えることが中心だった歴史の勉強にも興味を持ってもらえたらと考えています。他の人とも意見や感想を伝え合えば、より深い学びにつながります。

投票は、読売新聞オンラインでの会員向けの投票のほか、ワークシート通信で児童・生徒の皆さんが参加できるウェブ投稿フォームをお知らせする予定です。皆さんの投票をお待ちしています！

９月のＫＯＤＯＭＯ新聞と中高生新聞でも、投票項目を紹介します。教材用の特別価格で購読できますので、ぜひ紙面を見ながら投票にご参加ください。（購読申し込みは下部を切り取らずに FAX して下さい）

戦国 10 大ニュース
記　事　掲　載

学校教材用新聞購読申込書

２０２３年　　月　　日

学校名（施設名）			
学校長名（施設長名）		担当者氏名	
電話番号		FAX 番号	
所在地	〒　　－ 都道府県　　市区郡		
配達場所	※雨にぬれない所を指定して下さい。		
銘柄 購読部数	2023 年 9 月 21 日お届けの　読売 KODOMO 新聞（　　部） 2023 年 9 月 15 日お届けの　読売中高生新聞（　　部）		

教育教材用定価　読売 KODOMO 新聞（毎週木曜日発行）　１部　１５円（１０部以上）
　　読売中高生新聞（毎週金曜日発行）　１部　２０円（１０部以上）

※ご注意事項

- 上記定価は１配達場所での注文に適用されます。
- 離島など一部地域ではご要望に沿えない場合がありますので、配達が困難な場合は事務局からご連絡します。
- 教育教材用での斡旋になりますので、教育の現場で、児童・生徒等に対する授業で使用して下さい。
- 配達と集金は同一場所とさせて頂きます。
- 現在の月ぎめ購読と関係なく、別枠での日ぎめ購読となること。

必要事項をご記入の上、８月２日（水）までに下記ＦＡＸにご返送下さい。

お申込先ＦＡＸ番号　０３－３２１６－８８２４
お問い合わせ先　０３－３２１６－８８９２
読売新聞東京本社 販売局管理部 学校教材係